

## 諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 24 年 11 月）

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方気象台

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、爆発的噴火<sup>1)</sup>は発生しませんでした。ごく小規模な噴火が断続的に発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

## ○ 11 月の活動概況

- ・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3-①⑥、図 5、図 6）

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、爆発的噴火は発生しませんでした。ごく小規模な噴火が断続的に発生しました。

噴煙の最高高度は火口縁上 500m（10 月：最高 700m）でした。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映<sup>2)</sup>を時々観測しました。

9 日に実施した現地調査では、御岳火口から南西約 2 km 付近でごく少量の降灰を確認しました。また、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、25 日に島内の集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰が確認されました。

文化火口において 8 日に実施した現地調査では前回（2011 年 11 月）と比較して火口内の形状等に特段の変化はありませんでした。赤外熱映像装置<sup>3)</sup>による観測でも地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。



図 1 諏訪之瀬島 11 月 20 日の状況（キャンプ場遠望カメラによる）

ごく小規模な噴火が断続的に発生し、噴煙が火口縁上 300m まで上がりました（11 月最高 500m）。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 12 月分）は平成 25 年 1 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『基盤地図情報 10mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

・地震や微動の発生状況（図 3-②～⑤⑦⑧、図 4）

火山性地震<sup>4)</sup>は少ない状態で経過しました。

火山性微動は9月28日からほぼ連続しており、なかでも11月は常時発生していました。火山性微動の継続時間の月合計は720時間（10月：705時間19分）でした。

- 1) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 3) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 4) 火山性地震のうち、A型地震はP波、S波の相が明瞭で比較的周期の短い地震で、一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊によって発生していることが知られています。また、B型地震は相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。P相やS相が明瞭で高周波成分が卓越する地震です。

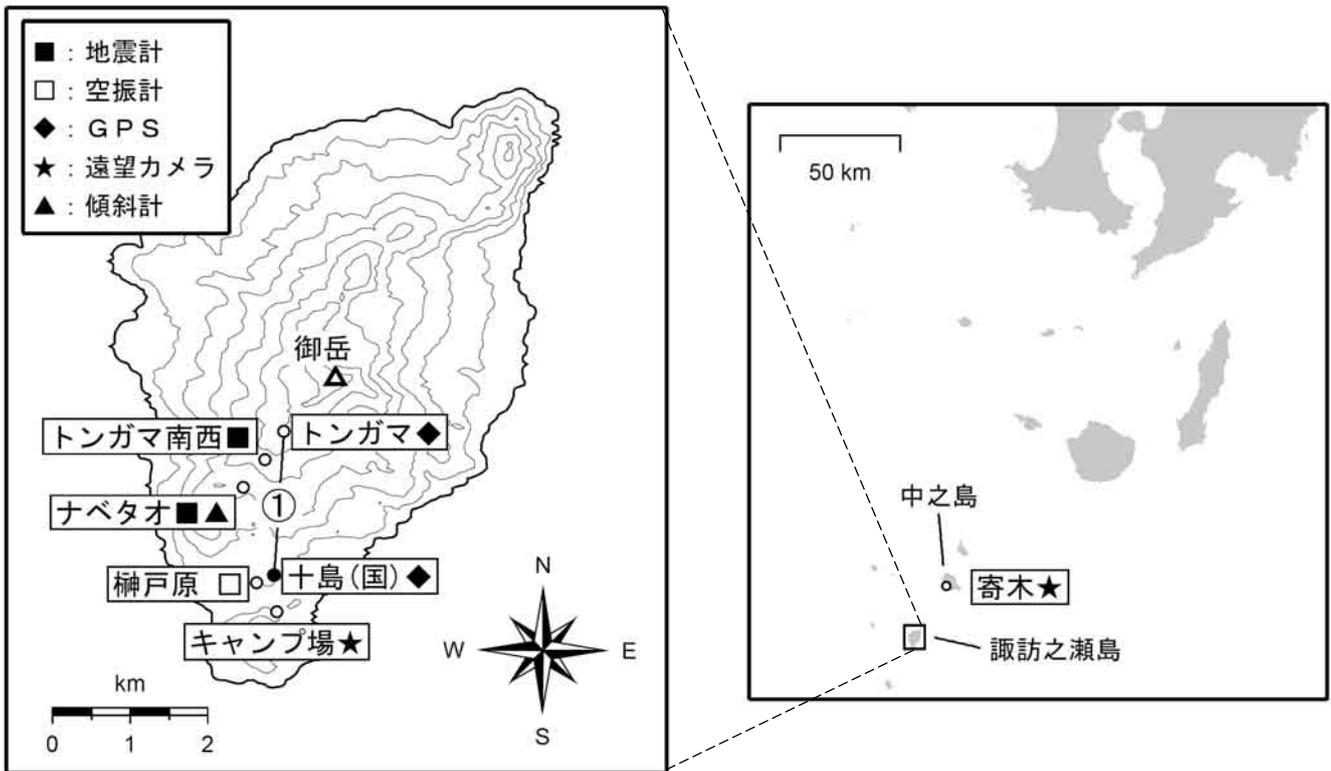


図 2 諏訪之瀬島 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院

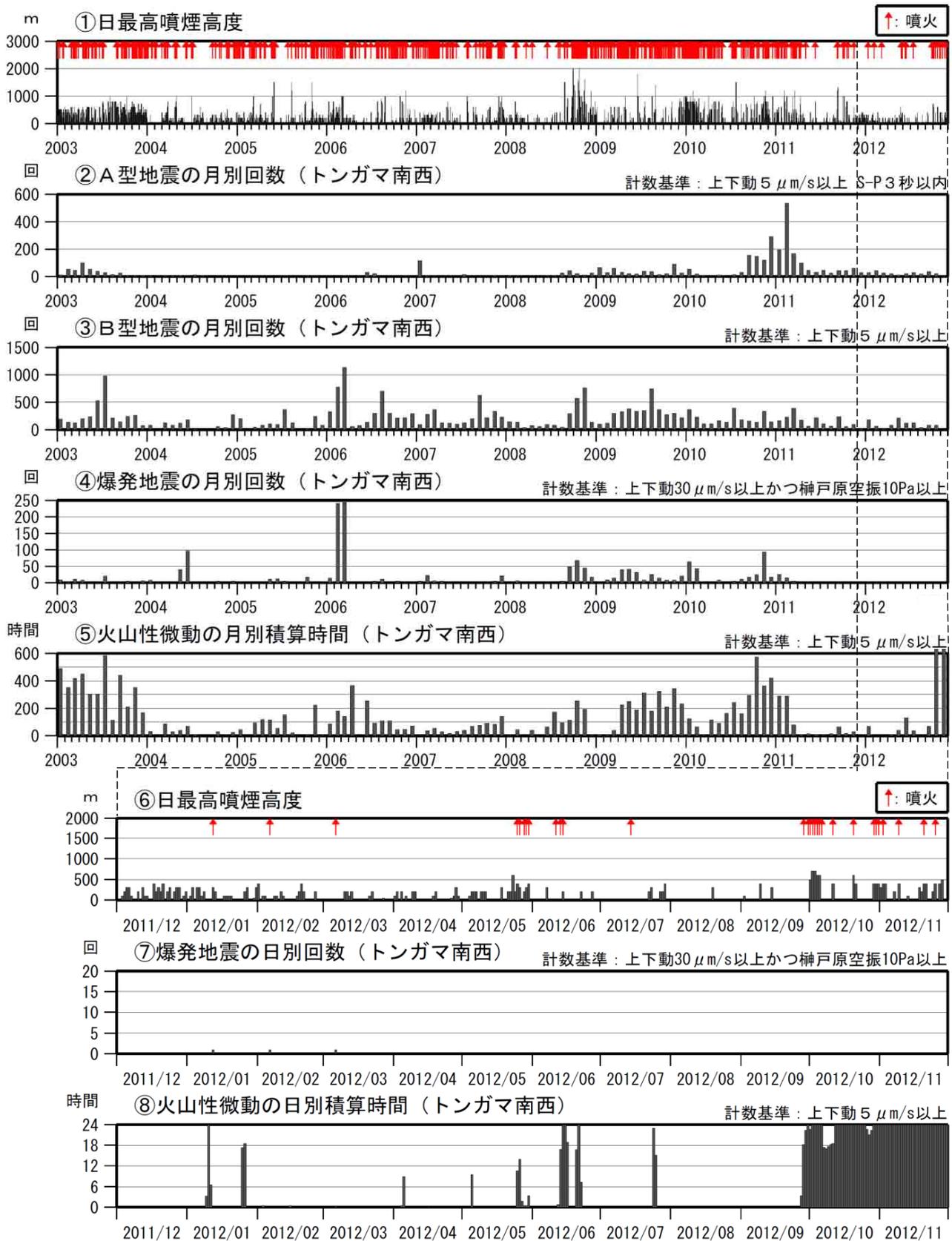


図3 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2003年1月～2012年11月）

長期にわたり噴火を繰り返しています。

<11月の状況>

- ・ごく小規模な噴火が断続的に発生しました。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動は9月28日からほぼ連続しており、なかでも11月は常時発生していました。火山性微動の継続時間の月合計は720時間（10月：705時間19分）でした。

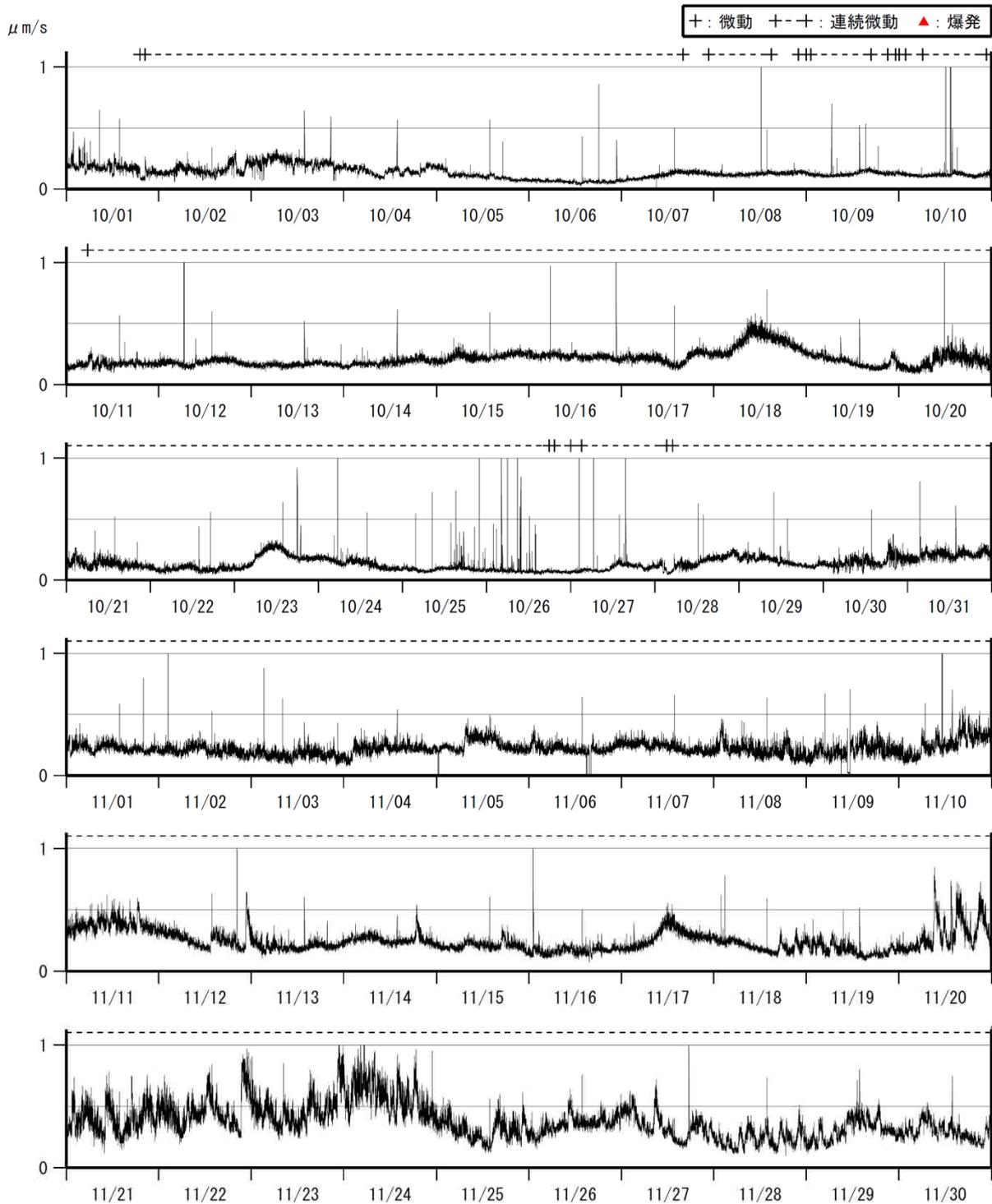


図 4 諏訪之瀬島 1 分間平均振幅の時間変化（ナベタオ上下成分）（2012 年 10 月～11 月）  
 <11 月の状況>

火山性微動は 9 月 28 日からほぼ連続しており、11 月には常時発生していました。火山性微動の継続時間の月合計は 720 時間（10 月：705 時間 19 分）でした。

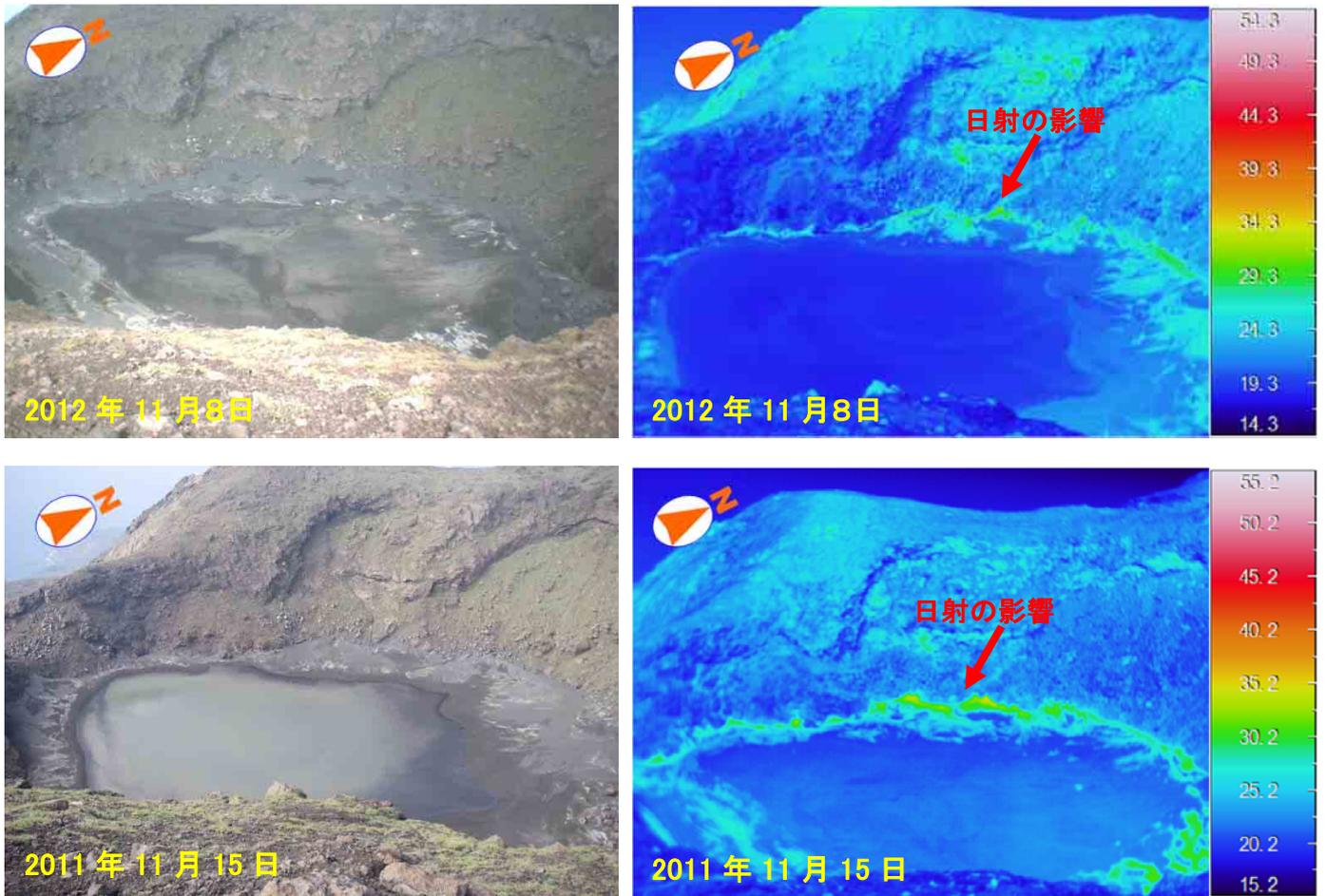


図5 諏訪之瀬島 文化火口内の状況（図6の観測点より撮影）

（左：可視画像 右：赤外画像）（上段：2012年11月8日撮影 下段：2011年11月15日撮影）

8日に実施した現地調査では前回（2011年11月）と比較して火口内の形状等に特段の変化はありませんでした。赤外熱映像装置による観測でも地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

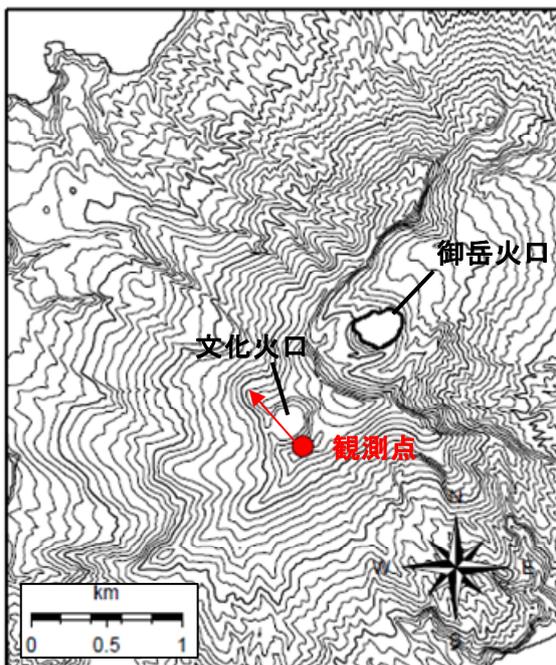


図6 諏訪之瀬島 現地調査観測点と撮影方向